

2014年度 長大生が選ぶ
“残したい長崎の音風景17選”



はじめに

第2巻となる『長大学生が選ぶ“残したい長崎の音風景”』2014年度版をお届けします。本取組みは、昨年同様、長崎大学教養教育の講義である「ことばと文化Ⅱ 音楽と表現」の講義の一環として行われました。今年度は、以下3つの視点を設定し選定作業を行っています。

- (1) あらゆる世代の人々と共有したいから残したい長崎の音風景
- (2) 人と自然のつながりが感じられるから残したい長崎の音風景
- (3) 長崎にしかないから残したい音風景

選定された17の音風景の内訳は、(1)として4つ、(2)として7つ、(3)として6つとなっています。

選定するにあたって注意した点は、特別な努力をしなければ聞けない音風景は除く、プライバシー保護の観点から公の場を対象とする、選定することで不利益が生まれない音風景であること等です。選定することで不利益が生まれないよう様々な点から検討し、紹介文も配慮して作成していますが、お気づきの点がございましたら長崎大学教育学部の西田 (osamu-n@nagasaki-u.ac.jp) までご連絡いただけましたら幸いです。

それでは、選ばれた17の音風景をお楽しみください。

目次

はじめに.....	2
I. あらゆる世代の人と共有したいから残したい長崎の音風景.....	4
1. 雨の出島.....	4
2. 五島列島へ向かう船の上.....	5
3. 被爆のカラスザンショウの木（城山小学校）.....	6
4. 千歳町からくり時計（チトセピア前）.....	7
II. 人と自然のつながりが感じられるから残したい長崎の音風景.....	8
5. 山王神社.....	8
6. 諏訪の社.....	9
7. 野母崎 脇岬海水浴場.....	10
8. 文教公園.....	11
9. 弁天白浜海水浴場.....	12
10. 長崎大学医学部保健学科へと続く階段.....	13
11. 水辺の森公園.....	15
III. 長崎にしかないから残したい音風景.....	16
12. グラバースカイロードから第二ゲートまでのエリア.....	16
13. 時津ウォーターフロント公園.....	17
14. 長崎くんち.....	18
15. 平和公園 ～祈りのゾーン～.....	19
16. 浜町アーケード.....	20
17. 路面電車.....	21
おわりに.....	22

I. あらゆる世代の人と共有したいから残したい長崎の音風景

1. 雨の出島

アクセス：電停出島で下車。徒歩1分。

長崎は「雨が多い」とよく言われます。私は昔から雨の音を聞くのが好きで、雨の日は、なぜか落ち着いた気分になれました。しかし、旅行や観光となると話は別です。天気予報を見ては雨が降らないことを祈ります。それでも雨が降ったとき、長崎を訪れる人のために、長崎で雨の似合う場所はどこだろうと考えてみました。そこで浮かんだのが出島です。日本の浮世絵に「雨」をテーマにしたものが多く、自然の中で降りしきる雨や、傘をさして往来している市井の人々が生き生きと描かれていて、そのイメージに合ったからです。幸い、このことを思いついた日は、夕方、雨の予報でした。私は、路面電車に乗って出島に向かいました。雨を待っていると、ぽつりぽつりと私の頬に落ちてきました。パラパラと降り出した雨は、一気にザッと激しくなり、私は急いで傘を出し、雨が傘に打ち付ける音を聞きました。ポロンポロン、パタパタ。耳をすますと、いろいろな音が聞こえました。その雨の音を聞きながら出島を見ると、私はふと江戸時代の浮世絵の中の人物になったような気がしました。ここを紹介するのは、雨音を楽しみ、風情を感じることができるからです。雨の日にしか聞くことができないので、雨の日にぜひ訪れてみてください。（末廣拓登）

作成協力：堀川真太郎



2. 五島列島へ向かう船の上

アクセス：電停大波止で下車、徒歩 5 分、大波止ターミナルビル内より 福江行フェリーに乗船。

私は、晴れた日の午前 10 時頃、長崎港大波止ターミナルから出航した「フェリーつばき」に乗船しました。写真は、五島列島へ向かう途中に、船の上から見える景色です。

船の甲板に立って、目を閉じて、耳を澄ましてみました。風が横切る音、船のエンジン音、エンジン音の合間から聞こえる波の音、船の階段を降りる足音、近くにいる人々の話し声など、様々な音が聞こえてきました。天候の良い日には、魚の跳ねる音、鳥の鳴き声を聞くこともできます。また、五島列島の海は、水が透き通り、海面近くにいる魚を鮮明に見ることもでき、目で見る風景も美しいです。長崎港から五島列島へ船で向かう途中に、島が肉眼では見えず、辺り一面海が広がっている風景があります。広大な海の中に一隻の船だけがあるその風景と音は、海の広さを、自然の大きさを物語っていました。



長崎港と五島列島を行き来する手段であり、長年にわたって長崎の人々をつないできたこの海を様々な年代の人々と共有したいと願い、この音風景をここに紹介します。

(城山有美)

作成協力：橋口成美 本多隼人 長池太郎 中山嵩士

3. 被爆のカラスザンショウの木（城山小学校）

アクセス：電停松山駅で下車。徒歩5分。



長崎市立城山小学校の通学路ともなる平和坂。ここは戦時中に被爆し、昭和50年代に「平和坂」と命名されて今に至ります。

この平和坂を上る途中、右手の樹木林からは無数の鳥の鳴き声がピーピー、ツンツン、キュウキュウとひっきりなしに聞こえてきます。この坂を上って右に曲がり少し歩くと、被爆のカラスザンショウの木が見えてきます。

被爆のカラスザンショウの木は、小学校の体育館横にあります。爆心地から約500mのこの地で、この木は被爆しながらもかろうじて生き残り、現在はムクの木に支えられ今の姿を維持しています。樹皮は大半が剥がれ落ち焼け跡も見られ、戦争の傷跡を残しています。風でザワザワと木々が揺れる音と鳥の鳴き声が響く厳かな雰囲気の中、横の体育館やグラウンドからは、子ども達の元気な声やボールの跳ねる音が聞こえてきます。それ以外は、車の走る音が遠くに少し聞こえるだけです。

木の近くには小学生の字で書かれたカラスザンショウの木の説明文があります。



この木の生命力は、人々に感動を与え続けてくれます。この木とそれを取り巻く音風景を残したいと思いここに紹介しました。

城山小学校は公立の小学校なので、訪れる際にはご配慮をお願いします。また団体での訪問は事前に申し込みが必要です。詳しくは、ホームページにてご確認ください。(清武菜保子)



作成協力：森康輔 木野本達朗

4. 千歳町からくり時計（チトセピア前）

アクセス：電停千歳町で下車または、バス停「住吉」で下車。

電車またはバスを降りて徒歩一分。

千歳町のチトセピア前にあるからくり時計は、朝の10時以降、夜8時まで一時間おきに動き、特徴的な音が流れます。このからくり時計を中心に繰り広げられる音風景を紹介します。

動き出す2・3分前になると、カツカツ、タッタッという靴の音が徐々に音風景の背景へと退き、小さくなっていきます。そして、短針と長針が重なると、静かに音が鳴り始めました。龍踊りの人形が音とともに出てきて、次第に音が大きくなっていきます。よく耳をすませると電子音に交じって銅鑼のような音が聞こえてきました。しばらくすると、一度、龍踊りの人形たちが戻り、今度は龍踊りの人形に加えて蝶々夫人の人形も出てきました。先ほどの龍踊りの音に加えて別の曲も加わり、より大きく音が響いていました。驚きの声をあげる人もいれば、ただ何も言わずにじっとからくり時計を見つめている人もいます。全てが終わり、からくり時計が元に戻ると、「初めて見た」、「すごかったね」という言葉とともにまたカツカツ、タッタッという音が大きくなりました。

チトセピアから出てきたお客さんや近くを歩いている人、小さい子の「わあ」、「動いているよ」という声がたくさん聞こえてきて、親子や学生など様々な世代の人々がかからくり時計を通してつながりあうことができていました。にぎやかな声を聴いていると私自身も温かい気持ちになりました。からくり時計とそこに集う人々のにぎやかな声をみなさんもぜひ一度聞いてみてください。（川崎葉月）



作成協力：坂本裕基 水上雅之 山下貴裕

Ⅱ. 人と自然のつながりが感じられるから残したい長崎の音風景

5. 山王神社

アクセス：大学病院前電停下車 長崎大学歯学部方面に徒歩6分

この音風景を紹介する理由は、“大楠木”にあります。山王神社には、昭和20年8月9日午前11時2分原子爆弾投下の日から現在まで、大楠木がそびえ立っています。この大楠木は、あらゆる世代の人々に原爆の恐ろしさと平和の尊さを伝えるだけでなく、自然の偉大さを伝えてくれます。それによって、多くの参拝者が言葉を交わさずとも自然と触れ合うことができる場所となっています。

また、この音風景は、季節・時間によって様々な表情を見せてくれます。朝には、大楠木から小鳥のさえずりが聞こえ、日が暮れたころには、落ち葉の陰や草の隙間から虫の音が聞こえてきます。風が吹くと、大楠木の枝の隙間を通り過ぎる音、風でなびく楠の葉ずれの音を聞くことができます。風により奏でられるその音は、晴天の日は心地よいものですが、雨天の日には風の強さに恐怖さえ感じます。他にも、ほうきで掃除する音、集めた落ち葉を袋に入れる音、参拝者の靴・シャッター音、子どもの泣き声・笑い声・歌声などを聞くことができる場所です。

歴史、平和、人と自然のつながりを感じるこの場所をみなさんもぜひ訪れてみてください。（池田珠美）



作成協力：清家愛 真栄田茜 平果林 山崎翔斗

6. 諏訪の社

アクセス：電停 諏訪神社前から徒歩5分。

神社の階段を登り、神社に入り、本殿下の神馬像を右にみながら進む。

私が紹介するのは、諏訪の社です。諏訪神社の境内を抜けると小さな池がついた公園があります。小さな池には噴水がついており水の落ちる音が響いています。少し奥まで歩くと景色は一変、穏やかな森の中につきます。森の中では先ほどの噴水の音とともに、葉が揺れ動く音と鳥の鳴き声あたりを包みます。工事の音や車の音などの人工的な音は一切聞こえず、自然の音に包まれたきれいな音風景でした。さらに少し進んでいくと御神木が道路の真ん中に立っていました。木はとても大きく、葉が揺れ動く音も迫力があり、圧倒されました。

私がこの場所を紹介したい理由は、その地域が昔から自然を特に大事にしているためです。この社の中の公園は、長崎で一番古く、車がない時代からありました。その後、車が普及し道路を舗装するにあたって木を切っていたのですが、この樹齢数百年を超える御神木だけは残そうという地域の人々の意見から、道路の真ん中という場所でありながら、今でも大事に残されています。



このように自然を大事にしている地域ですので、自然が奏でている音は本当にきれいでした。このきれいな音や風景を私たちは引き継ぎ、後の世代にも伝えていきたいと思い、この場所を紹介しました。

(木村和寿)

※自動車の往来に十分注意して音の風景をお楽しみください。

作成協力：松尾光 諸田有紀 緒方尚希 清武菜保子

7. 野母崎 脇岬海水浴場

アクセス：長崎駅前南口より長崎バス「樺島行き」に乗車。

その後、バス停「脇岬海水浴場前」にて下車。



長崎では整備された港や人の住む場所での夜景に近年注目が集まっていますが、自然の美しさや壮大さをもっと感じることができる場所の1つとして、多くの人に知ってもらいたいと考え、野母崎の脇岬を紹介します。

野母崎の脇岬は長崎県長崎半島の先にあり、海岸沿いの道路を車で走っていくと海水浴場が見えてきます。広がる海岸線と海の壮大さに思わず息をのみます。車から出ると、海原から吹き寄せる風が髪をなびかせます。地面の砂をじゃりじゃり鳴らし、砂浜を進んで海に近づいてみましょう。太陽が差し込むほどの良い天気であれば、目の前にはきれいなオーシャンブルーの広大な海が広がっているはずです。そよぐ風を体で感じながら、目をつぶり、周囲の音に耳を澄ましてみましょう。波の音がまず聞こえます。大小の異なる波音が近づいては消えていくなかで、周囲を飛び回るトンビの声に加えて、風が強い日では、ヒューヒューと風がそよぎ、たまに強いブローとなってブワッと体にぶつかってきます。これらを目と耳と肌を通して感じることで、自然の壮大さや、絶えず一定のものではなく変化する多様さ、自由さを感じることができるのではないかと思います。（坂田 尚弥）

作成協力：中尾海 出田真莉菜 田中未来

8. 文教公園

アクセス：岩屋橋電停で下車。または文教町バス停で下車。

純心女子学園裏手徒歩三分。

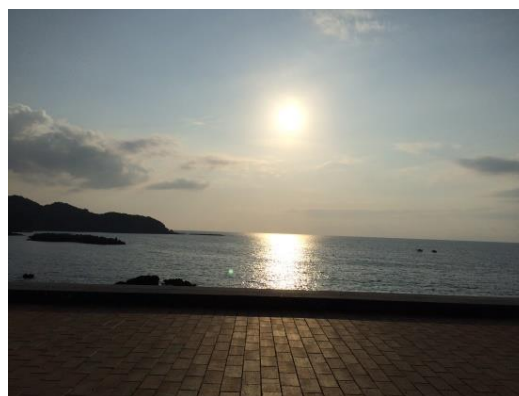
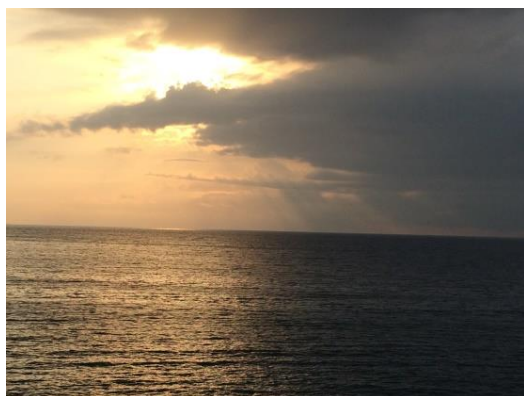
国道から一本入ったところにあるこの公園の周りにはほとんど車の通りがなく、国道を走る車の音が心地よいものとして遠くから聞こえてきます。チュンチュン、ピューピューとあちこちからたくさんの小鳥の鳴き声がし、秋風で木の葉がはらはらと宙に舞う音も聞こえます。さらには子どもたちの楽しく遊んでいる声、遠くの方からはパンッパンッとテニスボールが地面に叩きつけられる音とともに、学生の元気な掛け声もします。浦上川沿いではポチャポチャポチャという穏やかな水の音が聞こえ、夏には子ども達が川で遊んでいる音が聞こえてきます。この場所を紹介する理由は、地域の人々の憩いの場となっており、自然と人のつながりを様々な音の中で感じられる場所は他にないと感じたからです。川が流れ、植物が風で揺れる音などの自然の音と車やボールの音、さらには人の話し声などの人工的な音とがどちらかの音が大きいというわけではなく、どちらの音もバランスよく聞こえてきて、時期を問わず、季節や時間を音で感じられ、心穏やかな時を過ごすことができます。（諸田有紀）



作成協力：木村和寿 安部保奈実 長野圭佑

9. 弁天白浜海水浴場

アクセス：JR 長崎駅よりバス「柿泊、式見、相川行」に乗車後、
「弁天白浜海水浴場」で下車。



私がかきどまり弁天白浜海水浴場へ行ったのは、海水浴シーズンが終わった10月の中旬頃の休日のお昼から夕方にかけてです。かきどまり弁天白浜海水浴場に行き、まずきこえてきたのは、停泊している船が波に揺られている心地の良いギコギコという音です。それから、砂浜の方へ歩いていくと、岩場の方から釣りをしている親子の話し声や笑い声といった素敵な家族団欒の音がきこえてきました。その音をききながら歩いていくと、今度は波が岩へあたる音がきこえました。砂浜の方へ行くと、波が跳ね返る音が波の大小に合わせて音が大きくなったり、小さくなったりしていました。どこまでも水平線がまっすぐつながっていて、雲からこぼれる太陽の光が水面にうつり、透き通った水がキラキラ輝いていました。そのような景色とともにきこえてくる波や風の音は、気持ちを壮大なものにしてくれました。このような海のありのままの音をきくことができるこの場所をこれからも残していきたい、多くの人々に伝えていきたいと思い、この音風景を紹介します。海水浴シーズンでは、人とのつながりを感じられ、オフシーズンでは自然とのつながりを感じることができます。（田中 未来）

作成協力：中尾海 坂田尚弥 出田真莉菜

10. 長崎大学医学部保健学科へと続く階段

アクセス：

保健学科へ行く道は3つあります。今回は、3つのうち車では入ることのできない2つの道の音風景について紹介します。上りは、道がわかりやすい(1)の道を利用し、下りは(2)の道を利用することをおすすめします。

アクセス(1)：

電停浜口町下車、徒歩15分。バス停大学病院前で下車、徒歩5分。大学病院の敷地入口の左にある道を進み、「長崎医科大学門柱」の案内看板があるところまで道なりに進み、その3つに分かれている道のうち、右の道を歩くと階段が見えます。



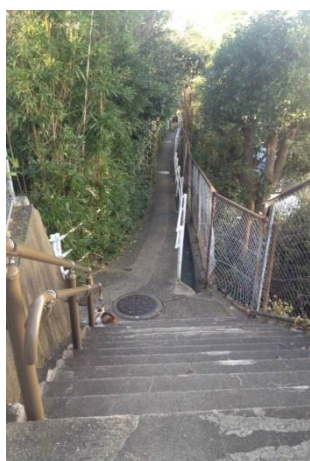
私が通っている保健学科は坂の上にあります、通うためには坂か階段を登らなければなりません。登校するとき、「ざっざっ」と階段を登っていくと、近くの民家で飼われている犬が「わんわん」と吠えて、朝まだ少しねぼけている私の頭を覚ましてくれます。階段を登りきって少し緩やかな坂を進んでいくと、春には菜の花、秋にはコスモスなどの花が咲いている場所があります。そこで立ち止まって耳をすますと、鳥が「ちゅんちゅん」鳴く音や、虫の「ぶーん」という羽音も聞こえてきます。大学病院の大きな機械の「ゴー」という音や、出入りする車の音も聞こえてきます。近隣の小学校からは子どもたちの声が聞こえ、毎朝元気を貰います。下校する夕方には、坂の上から長崎の夜景が少し見えます。「とっ」と靴を鳴らしながら階段を下っていくと、近くの民家からは台所で料理を作っている音や匂いがしていて、実家を思い出し、少し懐かしい気持ちになります。

アクセス(2) :

保健学科キャンパスに到着後、校舎向かって右手に進むと、駐車場が見えます。そこをさらにまっすぐ進むと、小さな鉄の門が現れます。ここから、紹介する音風景が始まります。

保健学科のキャンパスは急な坂をのぼった山の上にあります。行きの登り道で一番聴こえるのは自分の息遣いです。はあはあと急いで坂を上っていくと、自然と友達との会話も減ってしまいます。しかし、私がお勧めしたいのは登らないと聞くことができない下りの音風景なのです。両側を草木に覆われて、前方に少しだけ見える薄暗くなっていく長崎の景色を眺めながら階段を下っていきます。周辺からは静かに猫の鳴き声が聞こえ、のんびりご飯を食べたり人に気づいて急いで走って逃げたりする猫の気配を感じることができます。横にならぶ住宅から聞こえてくる物音や漂う夕飯の匂い、ビニール袋をかきごそさせながら帰る人を見ると、自然と家へと足を進めるスピードが速まります。すると急に角度のきつくなった坂道に足を取られ、トットトットと坂を駆け下りてしまうことも…。周りを囲む草木のざわめきを聴きながらのんびり歩くこの道は私のお気に入りです。

坂はどこにでも存在するけれど、住宅地の合間にぐねぐねと伸びるこの坂道は、長崎ならではの音風景ではないでしょうか。(古賀夏未、吉野友恵)



作成協力：小林由季 谷本栞里 梶原康宏

1 1. 水辺の森公園

アクセス：大波止電停から徒歩 5 分。

水辺の森公園では、様々な音風景を感じることが出来ます。普段は広場で遊んでいる子どもの“ワーワー”とはしゃぐ声、中高生からお年寄りまでの幅広い年齢の人たちの“ハアハア”という息遣いと、それに合わせて聞こえる地面を蹴る音、公園の周りには腰を下ろすスペースがあり、そこで楽しそうにおしゃべりをしているカップルや、家族連れの声などが聞こえてきます。また、水辺の森公園には自然も豊富に存在し、風の音やそれによってこすれる草木の“ザワザワ”という音、波の“ザーザー”といった自然が作り出す音風景も感じることが出来ました。そこは長崎の中心地でありながら、また違った時間の流れを感じられる場所でありました。今回は聞けなかったのですが、汽船の発着所である大波止ターミナルでは“ブオー”という汽笛の音



も聞くことが出来ます。周りに高い建物があまりないため、潮風を肌で感じたり、緑の中を散歩したりすることが出来る場所でもあります。

水辺の森公園はイベントの会場としての一面もあり、その時は普段とは違う音風景を感じることが出来ます。水辺の森公園は自然も豊かで、人々の憩いの場所として素敵な場所です。ぜひ訪れてほしいと思います。（川口 順平）

作成協力：安部 保奈美 稲富 淳 梅枝 知佳

Ⅲ. 長崎にしかないから残したい音風景

12. グラバースカイロードから第二ゲートまでのエリア

アクセス：電停「石橋」で下車。徒歩2分。

夜20時、グラバースカイロードを経由して、到着したそこには長崎の住宅地の灯が見える風景が一面に広がっていました。目を閉じると、電灯のじりりりという音のみが聞こえ、私達が普段耳にする車の音や工事の音を感じられない静の空間です。この急斜面で住む方はお年寄りが多く、ゆったりとした空気の流れる住宅地が存在します。このような急斜面だからこそ感じられる静けさがそこにはありました。また、そこを少し歩くと、風が通るたびに木がささやき、「にゃあにゃあ」と小さな声で「こんばんは」と言わんばかりにたくさんの猫たちのお出迎えです。まるで自分だけの特別な空間に招かれたような心地になります。猫たちの鳴き声につられてどンドン歩くと、自分の足音と呼吸の音だけが響き渡り、自分の生きている音を感じさせてくれます。ここには普段の生活で忘れかけている「静」の音風景が広がっているのです。この時間帯より早く行くと、風景と人々の暮らしに寄り添った生活音を同時に近くで感じることができます。

私達は普段、車の音や工事の音、様々な音に囲まれて生活しています。それに対し、たくさんの猫と静寂に包まれるこの住居街が作り出す音の風景は、長崎らしく普段とは違う特別な空間であるため、この風景を紹介します。

(焼山可菜)



作成協力：小出明妃 福富世那 草野夏穂

13. 時津ウォーターフロント公園

アクセス：時津バス停で下車。徒歩5分。



私が紹介したいのは時津町にある「時津ウォーターフロント公園」です。なぜここを紹介したいかというところ、この場所は長崎にしかなく、人と自然、人と人のつながりを感じることができる場所だからです。11月24日月曜日。勤労感謝の日の振替休日でした。午前10時を少し回ったころ、公園に入るとそこにはとっても穏やかな音風景が広がっていました。私の目に映ったのはたくさん子どもたちとそこへお父さん、お母さん、そして、おじいちゃんやおばあちゃんでした。公園の中をゆっくり歩いてみるといろいろな音が耳に入ってきました。誰かのバックに付いているのでしょうか、鈴の音がなっています。子どもが嬉しそうに「ママ」と叫んでいる声が何度か聞こえます。近くの工場から聞こえるのは稼働音です。国道沿いにあるため車が走る音は遠くで常に聞こえます。ぴゅーぴゅるるる、ちゅちゅ ちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅ、2種類の鳥の鳴き声も聞こえます。ベンチに座ると、犬の散歩やウォーキングをしている人たちの足音も定期的に聞こえました。気がつくと30分近くこの公園に滞在していました。本当に居心地の良い音風景です。みなさんもぜひ訪れてみてください。（本多隼人）

作成協力：城山有美 長池太郎 中山嵩士 橋口成美

14. 長崎くんち

アクセス：路面電車「諏訪神社前」電停で下車、地下道で神社の参道へ出ます。

ほかの場所でも観覧することはできますが、諏訪神社がおすすめです。

長崎に住んでいてこの行事を知らない人はいません。10月7日から3日間、長崎のいたるところで長崎くんちの音が聞こえます。

私が聞く長崎くんちの音は、テレビを通してのことが多いです。朝起きて、眠気眼の中、耳に入ってくるしゃぎりの音。リビングに行くと、落ち着いたアナウンサーの声とともに諏訪神社の人々の喧噪、担ぎ手の雄々しい声、太鼓やしゃぎりの音がひんやりとした朝の空気とともに五感を刺激します。ソファに座って、まだ少し眠い目で画面をぼーっと眺めていると、液晶の向こうからは、「もってこーい、もってこーい」という元気な声と、人々の生き生きとした姿が映し出されます。

私は町中に住んでいる長崎っ子ではないので、くんちに参加したことはありませんし、長崎くんちは大抵平日にあるので、実際にこの目では数えるほどしか見たことがありません。しかし、あの言葉で表現しがたい甲高いしゃぎりの音を聞くと、どこか楽しくなる自分がいます。長崎の人間であったら、この気持ち、わかってもらえるでしょうか。そんな素晴らしい音とそれにまつわる様々な様子は、是非後世にも感じてほしい音風景です。（小出明妃）



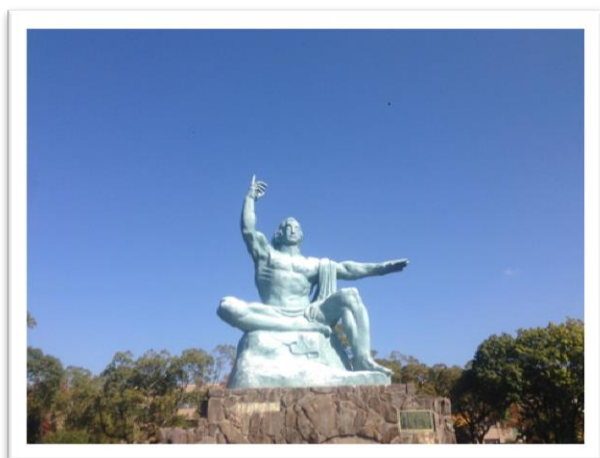
作成協力：福富世那 草野夏穂 焼山可菜

15. 平和公園 ～祈りのゾーン～

アクセス：電停松山で下車、徒歩3分。バス停松山町で下車、徒歩3分。

私が紹介する場所は、平和公園です。この場所を紹介するのは、忘れてはいけない歴史と平和の大切さを物語っている大切な場所の一つだと考えるからです。

連休の初日の良く晴れた土曜日、昼頃に平和公園に足を運びました。入り口の階段では、道路を通るたくさんの車の音が聞こえていました。階段を上るにつれて、車の音はだんだんと聞こえなくなって、代わりに聞こえてきたのは、ザーッという水の落ちる音でした。「何の音だろう」と思いつつ階段を上りきると、目の前に大きな噴水がありました。その音を聞きながら、さ



らに奥へと進むと、前から観光客の団体が歩いて来て、笑い声や、写真を撮る音が聞こえました。彼らの横を通り過ぎ、平和の像の前まで来ると、足元から水が落ちる音、写真を撮る音、おじさんたちの低い笑い声、ガイドさんの高くよく響く声が聞こえてきました。

そばのベンチに座り、静かに音風景に耳を傾けると、まわりの木々が風でゆれる音、鳥たちの個性あるさえずりも聞こえてきて、のどかで、まさに平和だなあ

と感じられる空間でした。

今、当たり前前の平和の中で生きていることが、どれほど幸せなことなのか、改めて感じられる場所でした。（桐原 志保美）

作成協力：緒方尚希 岡元隆之介 小澤佑太 富永優奈 福田大毅

16. 浜町アーケード

アクセス：長崎電気軌道（路面電車）の西浜町電停もしくは観光通電停で下車。

ここは長崎市の中心部にある浜町アーケードです。「浜まち商店街」とも呼ばれていて、昔から長崎の商店街の中で一番の賑わいを見せる場所です。アーケード街全域が国道 324 号の一部として指定されていますが、5時から10時までの時間帯を除けば歩行者専用道路になります。

ここでは一日中たくさんの音を聞くことができます。朝の通勤・通学時間は車のゆっくりと走る静かな音、通勤・通学をする人が足早に歩いていく足音が聞こえます。お昼ごろには買い物などで行き交う多くの人の足音と多くの話し声が聞こえます。夕方になると家へ帰る人たちの疲れた足音が聞こえます。それは朝の音よりゆっくりで、低い音です。夜になると清掃車のモーター音やどこからか聞こえるギターの音や歌声、そこを通り抜ける飲み会帰りの大人の声や足音など様々の音が聞こえ、この街はなかなか眠りません。夜中になり束の間の静寂がくるとまたすぐに朝の音に戻ります。なかでも昼夜問わずあたりから聞こえる長崎弁は地元の心地よさを存分に感じることができます。しかし、その日その時と同じ音はなく、その一瞬しか味わえない音になります。長崎の中心地にはこうして長崎の多くの人の音が集まり絶えず流れてきました。それは今も昔も変わらない長崎の大切な音風景です。これが将来も変わることはないように、浜町アーケードをここに紹介します。（長池 太郎）



作成協力：城山有美 中山嵩士 橋口成美 本多隼人

17. 路面電車

アクセス：JR 長崎駅（または浦上駅）出てすぐ。

長崎市内（赤迫～正覚寺下・蛍茶屋・石橋）

長崎市内の交通の中心を担っている路面電車、その中ではそこでしか聞くことのできない演奏を聴くことができます。

まず、電車に乗ると演奏の始まりを知らせるかのように発車のアナウンスが響き渡ります。電車が走り出すと、車輪が路線を越える「がたんごとん」という音や、「どんっどんっどん」というエンジンの力強い音が、まるでドラムの音のように聞こえてきます。さらに、陽気な広告放送の音楽はピアノ演奏のように聞こえ、機械の「びびっ」という音や降車の際の「チーン」という音は、管楽器などの音にも聞こえてきます。

また、それらの音楽に合わせるかのように、観光客の賑う声や学生達の元気な声、おばあさんたちの落ち着いた話し声が混ざり合い、合唱のように聞こえてきます。次の駅に着くころには、演奏の終わりを知らせるかのような停車のアナウンスが流れ、「プシューッ」という音を鳴らしながら電車が止まり、まるで一つの演奏が終わったような気分になります。そして何人かの乗客が降りて、違う乗客が乗ってくると前の駅とは違った演奏をまた奏でていくように聞こえました。

是非皆さんも電車を利用する際は、電車の奏でる音楽に耳を傾けてみてください。

（鳥辺 光）



作成協力：江村春佳 中島恵 寄本光稀 無津呂和也

おわりに

今年度は、候補として挙げられた33のうち、最終的に17の音風景が選ばれました。今年度の特徴は、ここには掲載されなかった音風景も含めて、特別な音風景というよりも、少し手を伸ばせば聞くことのできるような日常の音風景が多く取り上げられていたことにあります。受講生たちのこの視点は、すぐそばにあるものの大切さに改めて気がつかせてくれました。

「ことばと文化Ⅱ 音楽と表現」の講義は、大学の敷地内をリスニング・ウォークすることから始めます。会話をせず、考え事もせず、ただそこにある音を聞きながら歩くという活動です。通い慣れたはずのキャンパス内ですが、リスニング・ウォークを行ってみると、実にたくさんの音に囲まれていることに気がつきます。木々のざわめきや鳥の声、通り過ぎる足音、グラウンドからは金属バットでボールを打つ心地の良い金属音、遠くからは笑い声が聞こえてきます。講義室からグラウンドまでの片道5分程の道のりですが、そこには実に豊かな音風景が広がっています。表紙の写真は、リスニング・ウォークの途中、グラウンド前にある木のざわめきをおさめようとしたものです。

普段、私たちは、そこに在るはずの音風景にほとんど気がつきません。せわしなく生きる私たちは、普段、おそらくものをよく見てもいなければ、よく聞いてもいないのでしょう。時には立ち止まり音の風景を味わってみる、あるいは考え事もイヤフォンもせず音の風景を味わいながら歩いてみる。ただそれだけで、その日一日が豊かになる気がします。特別な場所に行かなくとも、発見や安らぎを提供してくれる音の風景がすぐそばにあります。そんな音の風景を大切にし、またその音風景に気が付ける感性も大切にしていける社会や文化が構築されることを願っています。

長崎大学の学生たちの力を生かして、何か社会に発信していくことができないかと考え、取組みを始めたのがこの音風景の選定作業です。学生たちの真摯な取組みの成果が皆様のお手に届き、何かのきっかけとなることができたら嬉しいです。

2015.1.16

長崎大学 教育学部
准教授 西田治

2014年度 長大生が選ぶ“残したい長崎の音風景17選”

編集・発行者 長崎大学教育学部 西田治 研究室

発行年 2015年1月20日